

平成22年 4月 30日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠学園

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「児童養護施設職員の先進施設視察研修旅行」

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

児童虐待を経験してきた子どもや、心の発達上の課題を抱える子どもの入所の増加にともない、児童養護施設では、養育力そのものや専門性など、そのもてる機能の強化が急務となっている。とりわけ、優れた人材の確保、職員の育成については、多くの施設において、喫緊の課題となっている。このような背景から、当園では、人材育成の手段の一つとして、「職員による先進施設の視察研修旅行」を計画し実施することで子ども達への手厚いケアが実践されていくことを期待して実施した。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

この事業では、次の三点の目標を掲げて実施をした。

①内外の先進施設、先進事業の視察を通して専門性の向上を目指し、自らの職務に対する姿勢を見直し、また将来展望のできる職員となることを期待する。②職員相互の親睦を深め、チームワークの醸成をはかり困難な状況に対し、乗り越える力を持った組織となることを目指す。③職員個々の社会的な見聞を広め、その経験が生活を共にする子ども達の成長に寄与することを期待する。

具体的には、5つのグループに分かれ、国内5ヵ所の施設視察と職員の福利厚生・交流懇親の機会となるよう、各グループで研修企画をおこない、実施した。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

研修企画を組み立てていくプロセスや実施の中で、グループメンバーの交流が図られ、普段の職場でのチームを超えた関わりをもて、お互いを理解し親交を深めることができた。全国各地での他の児童養護施設での取り組みを、実際に現場に赴いてお話を伺うことで、この仕事の根底に共通して流れるスピリットを、あらためて自らに思い起こさせ、そして、そのことが今の自身の仕事を客観視できるような機会となるように意図してきた。参加者一人一人が価値ある経験としてくれたように思う。また、あえて宿泊での研修としたことで、一定期間、現場を離れ、リフレッシュすることの効果もとても大きかったように感じた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

本来であれば、全職員が何らかの形で参加できるようにしたいところであるが、日程によりなかなか現場を離れることが難しい職員は参加することができなかった。また、海外の先進施設視察研修を計画していたが、日程の都合が折り合わず、残念ながら実施することができなかった。日本各地、それぞれの地方の特徴を活かし、実践を積み重ねて、共通の強い思いを持ちながら子ども達を支援する姿に、同業者として、ある職員は自らを省みて、ある職員は刺激を頂き、またある職員は具体的なヒントを得ることができた。今後も訪問させていただいた施設とのネットワークを大切に、相互交流をすすめていきたいと思う。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし